



新一万円札の顔・渋沢栄一と長岡市のつながりを紹介！ ミライエ長岡に『論語と算盤』画の複製を展示

人材育成と産業振興の拠点「米百俵プレイス ミライエ長岡」内に、日本の近代資本主義の父・渋沢栄一の思想を象徴する作品の複製展示コーナーを設置しました。下記のとおり概要をお知らせしますので、ぜひ取材くださるようお願いいたします。

『論語と算盤』画の複製展示

1 渋沢栄一と長岡市のつながり・展示目的

渋沢栄一は経済基盤整備と産業振興のため、日本全国を訪れました。長岡市にも生涯のうち5回足を運んでおり、第六十九国立銀行（現・第四北越銀行）の創立などに関わったほか、東京でのさまざまな場面でも多くの長岡出身の実業家と交流し、長岡の経済近代化に大きな影響を与えました。

『論語と算盤』画は、長岡出身の福島甲子三^{ふくしまかしぞう}が渋沢の古希の祝いに贈った書画帖に収められたうちのひとつで、作者は長岡出身の洋画家・小山正太郎^{こやましょうたろう}です。渋沢の著述『論語と算盤』は、この作品を見た友人との対話から始まっています。

同作品の複製品を展示することで、ミライエ長岡に集うビジネスパーソンや起業を志す学生など利用者のモチベーションの向上と新たな取り組みの創出を図ります。

2 展示物2点の概要

(1) 展示場所

米百俵プレイス ミライエ長岡 5階（長岡市大手通2-3-10）

(2) 複製展示

複製品と渋沢著述『論語と算盤』に関する情報をパネルにまとめて紹介

(3) 映像展示

作品の説明や渋沢と長岡のつながりを約2分間の映像で紹介



3 複製品の原資料

(1) 所蔵・保管 渋沢史料館（東京都北区西ヶ原2-16-1）

(2) サイズ 縦182mm、横212mm

4 その他

- ・『論語と算盤』渋沢栄一／著は互尊文庫内で貸し出ししています。
- ・今年7月20・21日に開催するミライエ長岡開館1周年イベントにて、渋沢史料館顧問・井上潤氏による講演を予定しています。

問い合わせ：ミライエ長岡企画推進室 鈴木
TEL 0258-86-6008